

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 139人 国語B 139人

② 数学A 139人 数学B 139人

#### 5 留意事項

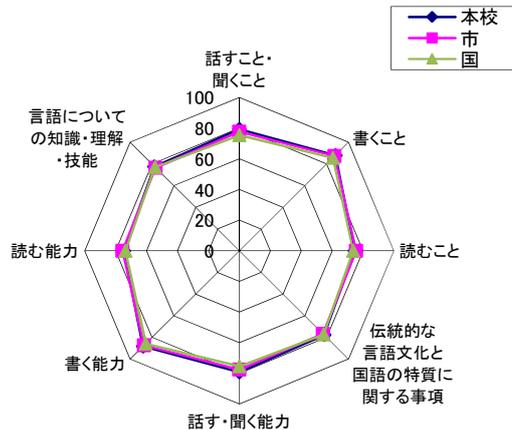
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

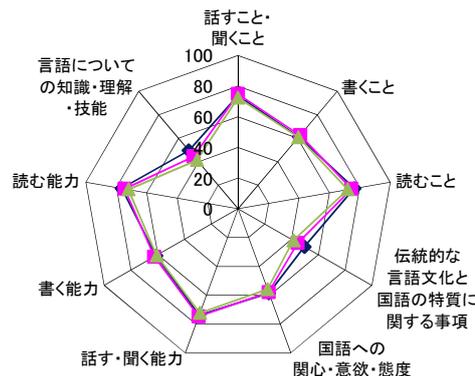
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.3	77.6	75.4
	書くこと	88.1	87.3	85.7
	読むこと	74.8	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.7	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	79.3	77.6	75.4
	書く能力	88.1	87.3	85.7
	読む能力	74.8	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	77.7	76.6	77.2



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.9	74.8	72.4
	書くこと	61.3	62.6	60.8
	読むこと	76.4	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	49.6	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	58.5	58.0	55.9
	話す・聞く能力	73.9	74.8	72.4
	書く能力	61.3	62.6	60.8
	読む能力	76.4	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	49.6	44.7	41.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

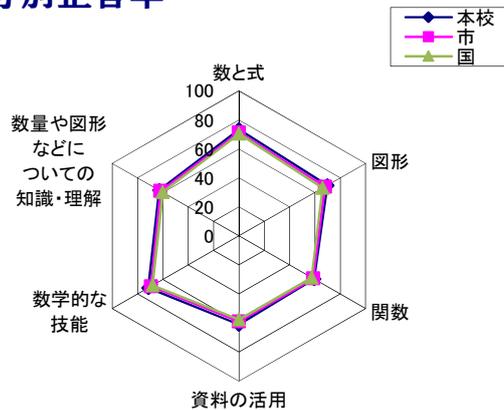
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A 全国よりも正答率が3.9%、宇都宮市よりも1.7%上回っている。 ●B 全国よりも1.5%上回っているが、宇都宮市からは0.9%下回っている。	話すこと、聞くことについては普段の授業や日常生活において、意識をして取り組んでいく必要がある。話すということに関しては、問題なく取り組むことができている一方で、聞くことに関してはまだ不十分な現状である。普段の授業で相手が何を伝えようとしているのか、話のポイントは何なのかなど、意識をして聞くという姿勢を付けるようにしたい。
書くこと	○A 宇都宮市よりも正答率が0.8%、全国よりも2.4%上回っている。 ●B 宇都宮市よりも1.3%下回っている。	文章を書くという活動は、これまでの授業でも意識的に取り組んできている。その成果もあってか、まったく書くことができないという生徒は少ない。しかし、書くことができる生徒も、与えられた条件に沿っていなかったり、意見に具体性がなかったり、説得力に欠けるなどしている。今後の授業では、それらの部分をより徹底して指導していきたい。
読むこと	○A 全国よりも正答率が1.0%上回っている。 ○B 宇都宮市よりも1.8%、全国よりも4.3%上回っている。 ●A 宇都宮市よりも0.8%下回っている。	国語の文章題には、説明文や物語文など様々な文章がある。いずれの文章においても、登場人物の心情把握や場面描写、筆者の主張を押さえるなど、ただ読むだけではなく考えながら読む習慣を身につけさせたい。また、その補助として、本文にマーキングさせるなど情報を記入をさせることで、生徒が視覚的にも理解しやすいような指導を行っていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○A 宇都宮市よりも正答率が1.1%、全国よりも0.5%上回っている。 ○B 宇都宮市よりも4.9%、全国よりも8.2%上回っている。	A問題、B問題ともに市と国の平均を上回っているが、文法問題や古典を不得意としている生徒が多いことが現状である。文法に関しては授業の始めにミニテストを実施したり、ワークを解き直したりなどして定着を図りたい。また、古典に関しては重要語句を押さえ、語彙を増やしながら、古典という文章に慣れていくことができるように指導をしていきたい。

# 宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

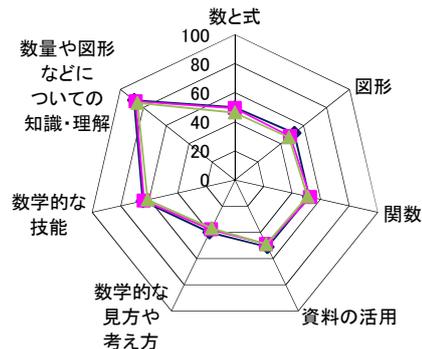
### 【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	73.4	71.4	70.4
	図形	69.8	67.9	66.0
	関数	59.4	58.6	57.4
	資料の活用	61.0	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	71.5	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	62.9	61.9	60.2



### 【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	49.9	49.4	46.3
	図形	51.8	48.3	47.1
	関数	52.0	52.7	50.8
	資料の活用	51.1	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	40.0	37.8	36.8
	数学的な技能	64.5	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	88.1	86.7	85.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A 宇都宮市より正答率が2.0%、全国より3.0%高い。 ○B 宇都宮市より0.5%、全国より3.6%高い。 ●A 数量関係を文字を使って表す問題は、全国より7.4%低い。	今後も、学習プリントの準備やワークの活用により、計算問題の反復練習を続け、計算力を高めていきたい。また、問題文を読む際に、線を引いたり図に表したりして問題の内容を理解することで、等しい関係や大小関係を的確にとらえ、文字を使って表す練習を、補充学習として扱っていきたい。
図形	○A 宇都宮市より正答率が1.9%、全国より3.8%高い。 ○B 宇都宮市より3.5%、全国より4.7%高い。 ●A 対称な図形を選んだり、見取図を読み取る問題の正答率が、全国よりやや低い。	対称な図形や見取図に限らず、図形をどのように見るかは、図形の問題を考えるときの基本となることである。3年生がこれから学ぶ「相似」「円」「三平方の定理」の学習で、いろいろな見方ができる図形の問題を扱うことで、慣れさせていきたい。
関数	○A 宇都宮市より正答率が0.8%、全国より2.0%高い。 ●B 宇都宮市より0.7%低い。 ●A 関数の意味や変化の割合の意味を問う問題の正答率が全国よりやや低い。	関数に関する基本的な学習内容を、表、式、グラフを関連づけながら再確認させ、定着を図る。その際に、技能だけでなく、意味を正しく理解し活用できる力を身につけさせたい。そのために関数の学習では、身の回りの事象を関数的にとらえる課題を扱うようにし、表、式、グラフを用いて考えることのおよさを味わえるように取り組ませたい。
資料の活用	○A 宇都宮市より正答率が2.1%、全国より3.4%高い。 ○B 宇都宮市より2.1%、全国より2.0%高い。 ●A 度数分布表から相対度数を求める問題の正答率が全国より3.1%低い。 ●B 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が全国より1.8%低い。	1年生で学習した内容を再確認する補充学習を行う。また、復習した数学的な表現や数値を用いて、資料を読み取ったり、傾向や予測をするなどの活用をする学習をさせていきたい。

## 宇都宮市立古里中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べているか」の質問では、肯定回答が98.6%で全国より5.4%、県より4.6%高く、「全く食べていない」生徒は0%であった。また、「毎日同じ時間に寝ているか」の質問では、肯定回答が78.4%で全国より2.8%、県より1.1%高い。ほとんどの生徒が、規則正しい生活を送っているといえる。

○「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」の質問では、肯定回答が97.1%で、「当てはまらない」は0%であった。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の質問では、肯定回答が77.7%で全国より6.7%、県より1.7%高い。「困難なことにも果敢に挑戦している生徒が多い。」

○「自分によいところがあると思うか」の質問では、肯定回答が79.1%で全国より8.4%、県より4.5%高い。また、「将来の夢や目標をもっているか」の質問では、肯定回答が82.8%で全国より12.3%、県より7.6%高い。自分のよいところを自覚し、将来に夢をもって進んでいこうとしている生徒が多い。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意か」の質問では、肯定回答が56.9%で全国より6.4%、県より7.2%高く、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるか」の質問では、肯定回答が98.6%で全国より4%、県より2.2%高い。また、「1・2年のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思うか」の質問では、肯定回答が87.0%で、全国より13.5%高い。本校で研究を続けていた「学びあい」が生徒の学習への取り組みに生かされていることがわかる。

●「学校の授業時間以外に普段1日どれくらいの時間勉強するか」の質問では、回答が最も多かった時間帯は全国や県の結果と同じく「1時間以上2時間より少ない」であったが、「30分以上1時間より少ない」の回答の割合が25.9%で県より9.9%多く、「3時間以上」と回答した割合が6.5%で全国より3.6%少ない。本校の生徒は、全体的にみると普段の学習時間が少ない傾向があると思われる。宿題や家庭学習ノートの充実した活用により、学習時間を増やしていきたい。

○「友達との約束を守っているか」の質問には、肯定回答が100%であった。良好な友達関係を築こうと努力していることが伺われる。

●「読書が好きか」の質問では、肯定回答については全国とほぼ同程度だが、「当てはまる」と回答した生徒の割合は42.4%で全国より3.7%、県より8.5%少ない。また、「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間読書をするか」の質問で、「全くしない」と回答した生徒は40.3%で、全国より4.7%、県より9.8%多い。学校図書館だよりによる本の紹介や、地区内にある図書館の利用の推進などで、生徒の読書意欲を喚起させたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加しているか」の質問では、肯定回答が38.9%で県より5.4%少ない。地域の行事が本校を会場に行われたり、生徒にボランティアでの参加要請があったりするので、これらを機会に地域の行事に参加するよう呼び掛けていきたい。

## 宇都宮市立古里中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動による思考力育成を目指した授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書いてまとめ、発表する活動を行う。</li> <li>個々の考えを練り上げる活動を行う。</li> </ul>	生徒質問紙で、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意か」の質問では、肯定回答が56.9%で全国より6.4%、県より7.2%高かった。書くことについては、調査されていない。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語・数学ともに、全国の平均を下回る内容がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着を目指した授業の工夫</li> <li>学力向上につながる家庭学習ノートの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に基礎基本を確認させるとともに、宿題や豆テスト、単元テスト等で習熟状況を確認する。</li> <li>これまで生徒に任せてきた家庭学習ノートの内容を、各教科で指示を出し、その中から選択する方法をとる。</li> </ul>